

多元横浜読書会

24-54-2534

清水 淹(ひさし)

<今回>35042回目 2024年62月35日(月)14時~17時 6011会議室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読朝日文庫 p569510、補章両者は対等位置 より

<前回>349回144目 (24-54-20)29出席者109名

資料1) (2-3-1)第3489回 (24-54-2029)のまとめ(清水)

資料2)百済人祢氏の墓碑銘(気賀沢、岩田、清水)

資料3)隅田八幡神社鏡銘(古田、榛葉)

資料4)朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳(高木)

書式変更: インデント: 最初の行: 0 字

書式変更: インデント: 最初の行: 4 字

A 報告 金曜古代史 web 会議は藤田氏が skype で主導して、司会をし、和田氏がテーマ、発表者を調整して、運用されている。毎週(10時から11時半)無料なので、100回以上になっている。お二人から毎週は過負荷となる時もあるので、奇数週の提案があり、関西と関東の研究会の違いも分かり、面白く参加しています。今度5月31日は急に私に和田氏の方に出していた、「孝徳王朝説」をやってほしいと言われたので、「日本の名の起り」と共に受けました。参加できる方は、和田氏の方にアドレスを連絡して申し込んでください。名簿上は50人以上いますが毎回の参加は30名以内だろうと思います。操作方法は藤田氏が丁寧に教えてくれます。金曜webで服部氏が藤原不比等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得力が高い発表であった。私は「多胡碑」に不比等の名前が出てると質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不比等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧に紹介を受けた。「羊」は周囲が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位(第3位)の不比等の名を出したのは、中央政界で最大の实力者と評価されていたのではないかという意味で質問した。

B資料 今回は日程表と金曜 WEB で発表した原稿を配布します。料 2)その席上、配布を受けた、「百済祢軍墓碑銘」の解説状況が解説されていたので紹介した。発見当

時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。が祢軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀に

も名前が出ている。弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。660年百済が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級將軍として、活躍した。出所は北京の古物商から、拓本として出てきたもの、解説の様子が書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した。朝鮮の軍将が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命されていたのではないかと推定される。封禅の儀の倭国酋長は誰であったか、サチヤマか。

3) 榛葉氏より、隅田八幡神社の順佛画像鏡の解説の原史量として配布された。左文、読み方などの参考になる。皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。丁度今、読書している最中である。

4) 高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井について岩戸山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は何故「磐井継体戦争はなかった」論に変更されたか、調べるようになった。

C

書式変更: インデント: 左: 0.16 字, 最初の行: 0 字

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 字

C 読書 朝日文庫版:p562506、結び、3つの真実9行目、なお井上光貞は から

(1)——1) 仮説について 九州王朝説の論証を終えた今、隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日十を八月十日の意味に採った。理由は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之大中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「秦」である。①字形判定——左右対称に近い。奉か秦の左文か、直後の「遺」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)②対等の論理、従来説は大王・男弟王＝天皇、斯麻を配下の人物に当てていた。③「遺」の用例を多数出している。遺(使者)＋敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健自氏は念長寿を年長奉と判読して一を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遺の下に来る文例を上げた。これは一つの仮説にすぎないと。その通りであるが、これまでの一元史観、日本列島に王朝は天皇家以外にないというのも、同じ一つの仮説であるという視点がまったく欠けている。黄金の仮説も一つの仮説であるという視点が全く欠けている。

2) 倭の5王や多利思北孤の倭国も未定の問題であり、1つの仮説を立て、それが多くの現象(歴史学では史料事実や遺物の事実)を如何に過不足なく、説明できるか、その検証こそ学問だからである。

3) 大切なのは倭の5王や倭国王朝は天皇家という命題を直ちに信じ込み、それを仮説として検証する学問として一番大切な手続きをおろそかにした一点にある。そうしていれば、自らの学問集団が、郡評論争のように、それを発見するだろう。(郡評のその後の取り扱いは一元主義である)

4) 豪族について 大陸中国は九州の豪族の一つを相手にしていたに過ぎない、8世紀の天皇家に於いては事実である。天皇家の全日本列島統治の主人公は初めから天皇家だけという、根本観念、古事記の日本書紀の根本秘義、戦争中に「八紘一宇」のスローガンが軍部から言い出され、全地球に覇権が及ぶ権利がある事を信じこませようとしての宗教的政治理念は、敗戦によって破綻した。

5) 滅亡の原因 四世紀から七世紀まで、半島に大軍を送り続け、半島内の支配権を主張し、半島内の一拠点を取得しつづけようとした、何よりも半島内の人民の怨嗟の声に武力で支配しようとした、他国の領域に武力行使をして、長期間影響力を持ち続けようとした大国は滅び去る以外はないというのが歴史の鉄則である。

6) あとがき 古代史の激流の中に身を置いた。次は国内伝承、古事記、日本書紀に向かっている。普通の人間の理性に基づく実証に取り組みたい。

24——2024—2—5(月) 14時から17時 601会議室

——2—19(月) 14時から17時 602会議室—6—17(月) 14時から17時 601会議室

7—1(月) 14時から17時 601会議室

7—22(月) 14時から17時 603会議室

8—5(月) 14時から17時 601会議室

書式変更: インデント: 左: 0 mm, 最初の行: 0 mm

書式変更: フォント: 太字

書式変更: インデント: 左: 6.3 mm